

1. 科目名 (単位数)	教育実習指導 (初等) (1 単位)	3. 科目番号	EDTE2371
2. 授業担当教員	後藤 泰博		
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	各教科等の指導方法についてある程度理解していることが望ましい		
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。</li> <li>2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。</li> <li>3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。</li> <li>4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>教育実習では、指導案を作成し授業を行う力が必須である。また、教育実習指導を学んだ上での自己の課題を明確にするため、期末課題としてレポートに取り組む。</p> <p>課題1 指導案の作成と模擬授業 (個人・グループ)</p> <p>課題2 期末レポート (個人 1000文字 1枚)</p> <p>「教育実習指導での学びを踏まえて、教育実習に向けた具体的取組みについて」</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特に使用しない。その都度資料等を配布する。</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①文部科学省 新学習指導要領 (平成 29 年 3 月公示) 東洋館出版社, 2018 年。</li> <li>②文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社, 2018 年。</li> <li>③宮崎猛/小泉博明『実習生 受け入れ校必携マニュアル教育実習完璧ガイド』, 小学館, 2015 年。</li> </ol>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 小学校教諭としての資質を理解しているか。</li> <li>2, 児童理解を通して授業研究に取り組もうとしているか。</li> </ol> <p>○受講に対し、次の内容を総合して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 授業態度 (教科書の準備・私語・発表) 30%</li> <li>2, 学習指導案の提出 30%</li> <li>3, 模擬授業観察記録の提出 20%</li> <li>4, 模擬授業 20%</li> </ol> <p>上記の他に、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育実習は、教員志望者にとって最も重要な実践の機会である。受講生は、教師の仕事内容を学ぶと同時に社会人としての常識も必要である。学校現場は、将来の後輩の育成と同時に、意欲的で新鮮な実習生の態度を通して学校の活性化を図りたいという期待のもと、無償で実習生を受け入れてくれている。このような意味からも実習前から公務員・教師としての規範意識が望まれる。当然、日常の授業態度についても甘えは許されない。また、機会があれば近隣の小学校での参観も併せて行いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正当な理由がある欠席・遅刻・早退は、理由を書面にて提出すること。</li> <li>2. 私語・電話やメールや SNS での携帯の使用・居眠り・飲食等を禁止する。</li> <li>3. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得すること。</li> <li>4. 受講者の人数・学力・理解度・作業速度等により、内容を一部変更する場合がある。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	第 1 回目の講義で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、実習生の感想 (VTR) 小学校教育実習の目的と意義	事前学習	事前に「教育実習 (初等) の手引き」を通読し、抱負と同時に、疑問点や不安な点を明らかにしておく。
		事後学習	授業での質疑応答や、討論を通して、教育実習に対する心構えを築く。また、小学校教育実習に関する重要事項を整理し、自己のノートに記録する。
第 2 回	教育実習の心構え「自己紹介」「挨拶の仕方」教職員・全校児童・担当学級児童等に対して学ぶ	事前学習	事前に学校での初対面の自己紹介や挨拶の仕方について考えておく。
		事後学習	授業やお互いの自己紹介や挨拶の仕方でもかかった部分を記録し、自己紹介・挨拶に必要なことをノートにまとめておく。
第 3 回	基礎的スキルの確認 (基本的な文字の書き順や書き方)	事前学習	実習に必要な基本的事項について考えておく。授業に必要な漢字や文字の書き順など間違えないように予習しておく。
		事後学習	実習中に必要な板書について基本的事項を知り実習までに行えるようにしておく。

第4回	教育実習日誌の書き方 各項目の説明と実際の記述例	事前学習	教育実習日誌の手引き書にある記載事項を通読し重要な部分にアンダーラインを引く。。
		事後学習	教育実習日誌の記載練習で感じた反省点を自己のノートに記録する。
第5回	授業実践と板書計画 自信を持って板書ができるようにするためにきれいな文字に見える書き方のコツや板書の仕方について学習する。	事前学習	指導案・板書計画・教材等の作成を完了し、模擬授業のリハーサルの準備を整える。
		事後学習	模擬授業のリハーサルの反省点を基に、指導案・板書計画・教材等を修正する。指導案・教材等を次週3日前までに提出する。
第6回	個人による模擬授業と討論・事後指導1（早めに指導案が仕上がった学生から順に模擬授業を行い、それを全員で評価する。）	事前学習	模擬授業1の準備を行う。
		事後学習	模擬授業1、模擬授業後の討論や指導を参考にして、反省点・改善点をまとめる。
第7回	個人による模擬授業と討論・事後指導2（早めに指導案が仕上がった学生から順に模擬授業を行い、それを全員で評価する。）	事前学習	模擬授業2の準備を行う。
		事後学習	模擬授業2、模擬授業後の討論や指導を参考にして、反省点・改善点をまとめる。
第8回	個人による模擬授業と討論・事後指導3（早めに指導案が仕上がった学生から順に模擬授業を行い、それを全員で評価する。）	事前学習	模擬授業3の準備を行う。
		事後学習	模擬授業3、模擬授業後の討論や指導を参考にして、反省点・改善点をまとめる。
第9回	グループによる模擬授業と討論・事後指導1	事前学習	グループによる模擬授業1の準備を行う。
		事後学習	模擬授業1、模擬授業後の討論や指導を参考にして、反省点・改善点をまとめる。
第10回	グループによる模擬授業と討論・事後指導2	事前学習	グループによる模擬授業2の準備を行う。
		事後学習	模擬授業2、模擬授業後の討論や指導を参考にして、反省点・改善点をまとめる。
第11回	グループによる模擬授業と討論・事後指導3	事前学習	グループによる模擬授業3の準備を行う。
		事後学習	模擬授業3、模擬授業後の討論や指導を参考にして、反省点・改善点をまとめる。
第12回	グループによる模擬授業と討論・事後指導4	事前学習	グループによる模擬授業4の準備を行う。
		事後学習	模擬授業4、模擬授業後の討論や指導を参考にして、反省点・改善点をまとめる。
第13回	教育実習の評価	事前学習	「実習中の心得」の小学校教育実習の評価に関連する項を通読し、重要な部分にアンダーラインを引く。
		事後学習	小学校教育実習の評価に関する重要事項を整理し、自己のノートに記録する。
第14回	目指す教師像と礼儀作法	事前学習	「2 実習中の心得」の目指す教師像と礼儀作法に関連する項を通読し、重要な部分にアンダーラインを引く。
		事後学習	目指す教師像と礼儀作法に関する重要事項を整理し、自己のノートに記録する。
第15回	講義のまとめ 期末レポート提出	事前学習	教育実習の自己の課題について考え、ノートにレポートの構想を記録する。自己の課題を克服するための取組みを明らかにしたレポートを完成する。
		事後学習	教育実習の自己の課題への取組みについてレポートを作成する。自己の課題への解決行動を開始する。